

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 盛岡中央高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒020-0122
岩手県盛岡市みたけ4-26-1

E-mail info@chuo-hs.jp

Website <http://www.chuo-hs.jp/>

幼児児童生徒数 男子 617名 女子 314名 合計 931名
幼児・児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、国際理解教育を学校としての重点教育目標の一つに据えて教育活動を実践している。特に SDGs にある「教育」、「エネルギー」、「気候変動」、「陸上資源」および「平和」テーマに国際姉妹校との協同課題研究を実施し、課題発見能力、課題解決に向けた考察力、リーダーシップの育成を目標としている。

具体的活動としては、世界 19 の国・地域にある 24 の国際姉妹校を毎年 8 月下旬に盛岡に招待し行う CHUO 国際教育フォーラムを柱に、平成 29 年度は食の安全、環境問題から考える防災、貧困と教育問題・子供の人権と児童労働、国際ボランティアの 4 つのグループに分かれて研究発表を行った。また、フィンランドの姉妹校とは「森林生態系、森林資源と活用」をテーマに協同課題研究を実施し成果を発表した。

① CHUO 国際教育フォーラムに係わる活動

平成 29 年 8 月 31 日 (木)、盛岡市民文化ホール「マリオス」にて、本校国際姉妹校である世界 17 の国と地域の先生と生徒、および国内招待として、岡山学芸館高等学校、沖縄尚学高等学校の教員と生徒を含む、約 1300 人の参加のもと、第 19 回 CHUO 国際教育フォーラムを実施した。午前の部では JISP (一般社団法人日本イスラエイド・サポート・プログラム) の吉田真由美先生より「JISP のネパール災害支援について」という演題で基調講演をいただいた。生徒達にとっては、震災と復興への携わりかたについて考える機会となった。

続いて、姉妹校の生徒と本校生徒が、『Global Citizens for a more peaceful and tolerant world 平和で持続可能な世界を目指す「地球市民」になろう』のテーマに基づき、食の安全、環境問題から考える防災、貧困と教育問題・子供の人権と児童労働、国際ボランティアの4つのグループに分かれて研究発表を行った。

② 「森林生態系、森林資源と活用」に係わる国際協働研究

本校生徒8名とラヤマキセカンダリースクール（フィンランド）の生徒10名が1年半にわたる協同課題研究を実施した。内容は以下のとおり。

①第1期（テーマ 森林）

気候、植生、生態系などそれぞれの地域の特徴を調査共有し、比較する。

②第2期（テーマ 森林の変化）

気候、植生、生態系などそれぞれの地域の変化を調査共有し、比較する。

③第3期（テーマ 森林と産業）

林業および木材を利用した産業全般に関しそれぞれ調査し比較する。さらに森林資源を活用した、地域の振興につながるビジネスモデルを相互に検討する。

④第4期（テーマ森林と将来の地域のありかた）

近年の地域産業の変化、気候変動さらに環境汚染が森林に与えている影響を調査比較し、それぞれの地域社会が森林資源をどのように保護活用していくことが地域振興につながることを考察し、地域社会に対する提言をまとめていく。

① CHUO 国際教育フォーラム



② 国際協働研究



ウェブサイト→<https://rajamakimorioka.wordpress.com/>

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 課題発見能力)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

外務省 HP (SDGs)、国連広報センターHP、ユネスコスクール HP
産業技術総合研究所 HP 等を Web 教材として利用

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は、国際理解教育をすべての学校活動を通じて実践することを教育課程に取り入れている。特に、各教科の特性をふまえた課題研究として海外姉妹校と研究テーマ及び成果を共有することで、研究方法・内容の深化を図っている。また、テーマの設定に関しては SDGs にある 17 の目標に即したものになるよう指導することで、持続的発展可能な社会の実現に寄与できる人材を育成するという目標を実現するよう努めている。具体的には、教育、エネルギー、インフラ・産業・イノベーション、気候変動、陸上資源および平和を重点テーマに定め、さらに教科・科目ごとに研究テーマを細分化して課題研究を実施している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールおよび SGH アソシエイトとしての活動を担当する部署を教育企画課として設置し、国際姉妹校との交流を担当する国際課、教科教育活動の軸である教科主任会との協力関係の下でプログラムを実施している。なお、国際理解教育については、20年余にわたる国際姉妹校との交流を継続しており、継続的な活動を実現していると考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年度2回（9月、3月）に運営計画の進捗状況と PDCA サイクルの有効性を確認する内部評価を実施している。また、毎年度外部有識者による国際理解教育、課題研究活動、各教科のアクティブラーニングの実施状況に関する評価を受けている。今後の課題としては、本校の国際教育を地域社会と共有する方策の研究と、高等学校新学習指導要領の方向性に即した教科教育力の向上があげられている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果は、本校ウェブサイト上に、CHUO NEWS および電子ブック等の形式で公表している。特に地元岩手県内の教育関係者、中学生への情報発信に効果的であると考えている。今後は、さらに広い世代・地域と成果を共有することが課題である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

岩手大学理工学部、岩手大学農学部、葛巻町(風力発電、森林活用)等に、課題研究に関する協力・指導を依頼し、協力をいただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特記事項なし。
近隣にユネスコスクールがなく、交流の実施が難しい。
当面国際姉妹校との交流を優先して活動している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

国際理解教育と、国際的な視点・国際協力を含む課題探究活動について、生徒の意欲は非常に高い状況を保っている。毎年実施している姉妹校訪問には平均7～8倍の応募がある。国際交流が盛んなことが本校を志願する理由のひとつとなるほど、地域社会に認知されていると考えている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ①第20回 CHUO 国際教育フォーラムの実施。
- ②①に関わる課題研究活動の実施。
- ③全教科にわたる課題研究の継続
- ④環境及び地域イノベーションをテーマとする長期海外協働課題研究の実施。

参考資料

平成29年度第19回 CHUO 国際教育フォーラムパンフレット URL
http://www.chuo-hs.jp/pdf/19th_forum.pdf

平成28年度第18回 CHUO 国際教育フォーラム報告集「エクセルシア」電子版
<http://www.chuo-hs.jp/e-book/excelsior-18/html5.html#page=1>